

編集後記

師走である。最近時が経つのがめっぽう早く感じるようになった。年が明けたかと思ったらもう師走、週が明けて仕事だと思った途端にもう日曜が来る、こんな有様である。時間の進み方は皆一定のはずなのにいったいこれはどうしたものかとふと悩み、この現象についてちょっと調べてみた。昔からある有名な説に「ジャンー（Janet）の法則」というものがあるそうだ。同じ1年でも10歳と60歳とでは人生での比率が10分の1と60分の1で全く違うという説明である。わかるような、わからないような…。また、心理的な時計の進み具合には、身体の代謝の状態が大きく影響しているという説も出た。身体の状態が活発であれば心理的な時計は速く進み、不活発であれば進み方は遅くなる。つまり、代謝が低下した高齢者では心理的な時計の進み方が鈍り、時間の経過を速く感じるという逆説的な説明である。なるほど…でも納得すると悲しい。さらに、大人になると慣れ親しんだ刺激の少ない出来事ばかりのため、時間経過に注意を向ける回数が減り、その分時間の進行が速く感じられるという説も囁かれている。クリスマスやお正月が子供の時分に比べさほど待ち遠しくない大人たちは、この説に多くの人が肯くだろう。結局、悲しくなる一方なので調べるのを止めた。時が経つのをゆっくり感じるためには、指折り数えて「早く来い来い」イベントをコンスタントに作り出す、これしかないと自分のなかで結論づけた。読者の皆様にも参考になれば幸いである。

さて、50巻4号を皆様のお手元にお届けする。本号では、意義深い原著論文2本と、特集「癌治療とゲノム医療」総説6本、さらには好評を博した市民公開フォーラム「中高年の排尿トラブルを解消します」の演者らによる総説3本がラインアップしている。いずれの論文からも現場で活躍している医師たちの情熱が感じ取れ、日常臨床に定着しつつある最先端のprecision medicineと、common diseaseとしての排尿トラブルについて広く学べる内容となっている。この場を借りて、ご執筆いただいた著者の皆様に感謝申し上げたい。読者の皆様にはぜひ本号を熟読され、新年からの診療や教育にお役立ていただけたらと思う。

(N.A.)

編集委員

(長) 桶川隆嗣

阿部展次	今泉美佳	井本滋
照屋浩司	長島文夫	長瀬美樹
森秀明	森田耕司	渡邊衡一郎

杏林医学会雑誌 第50巻 第4号

URL : <http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/kyorinms>

令和1年12月31日発行

編集人 桶川隆嗣

発行所 杏林医学会

東京都三鷹市新川6-20-2

杏林大学 医学図書館内